

西銘内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策）コメント
（令和４年度沖縄振興予算案閣議決定）

令和３年１２月２４日

令和４年、沖縄の本土復帰から５０年の大きな節目を迎えます。新たな沖縄振興の初年度となる令和４年度の沖縄振興予算案については、厳しい財政状況の中ではありますが、沖縄振興を総合的・積極的に推進するための所要額を確保しました。

今回の予算案では、沖縄の子供の貧困対策、北部地域及び離島の振興、今後の基地跡地利用のモデルケースとなる西普天間住宅地区跡地における健康医療拠点の整備など、重点的に取り組むべき分野の予算を増額して計上するとともに、産業競争力強化・産業人材の育成に関する予算を新規に計上しました。

沖縄の観光や県民生活を支える道路、港湾、空港等の社会資本整備を一層推進するとともに、沖縄の方々の拠り所である首里城の復元を着実に進めてまいります。また、災害に強い県土づくりについても、令和３年度補正予算と合わせ、取組を加速化してまいります。

この他、沖縄におけるクリーンエネルギーの導入促進について新規に予算を計上するとともに、沖縄科学技術大学院大学（OIST）に係る予算等について、所要額を確保しました。

一括交付金についても、私自ら財務大臣と折衝を行い、特に市町村における事業展開に必要な所要額を確保しています。

令和３年度補正予算と合わせ、これらの予算を従来以上に効果的・効率的に執行し、沖縄が抱える様々な課題の解決に向けた沖縄の取組を支援してまいります。さらに、優位性と潜在力を活かした「強い沖縄経済」が実現されるよう、また、県民の皆様が暮らしの向上や豊かさを実感できるよう、沖縄公庫による政策金融機能や各種税制措置等も最大限に活用し、沖縄の振興に全力で取り組んでまいります。